

今後の進め方

2016年9月26日

今後のスケジュール

- 今後、以下のスケジュールで構想策定を進めていくことを予定。

<会議日程案>

日程案		議題案
9月26日	第1回	・生涯活躍のまちとは ・鴨川の現状と課題 ・目指す方向性 ・今後の進め方
11月上旬	第2回	・移住のニーズ【👉移住意向調査結果】 ・鴨川版CCRCで取り組む事業案
12月中旬	第3回	・CCRCによる地域への効果影響【👉CCRCの効果・影響分析結果】 ・高齢者の活躍可能性【👉市内事業所の高齢者雇用意向調査結果】 ・鴨川版CCRC基本構想（素案）
1月下旬	第4回	・パブリックコメントの結果 ・構想実現に向けた今後の進め方 ・「鴨川版CCRC基本構想（案）」

移住意向調査

➤ 一都三県住民に対するCCRC移住意向調査をインターネットアンケートにより実施

a. 調査の目的

鴨川版CCRC構想に位置付ける取り組みやその対象エリア、今後のアクションプランの策定に向け、以下の2点を把握。

<意向調査の目的>

A：CCRCのターゲット層とそのボリューム

※移住のターゲット層は、一都三県の居住者で、Uターン／Iターンの可能性が高い鴨川市に縁やゆかりがある層（出身者、親戚縁者が居住、訪問頻度が高い等）と、鴨川市への移住希望層の2種類を想定。

B：ターゲット層が希望する移住スタイル（二地域居住or移住）、CCRCに求める要件（施設・立地要件、プログラム等）等のニーズ

b. 調査方法

調査の目的に対応して、以下の2段階で調査。

●スクリーニング調査

一都三県のアンケートモニターに広く移住意向、鴨川市との縁ゆかりの有無を調査し、どの程度の移住意向者が存在するのかを把握。

●本調査

スクリーニング調査の結果、絞り込まれた移住希望者及び鴨川と縁ゆかりのある方々に、鴨川版CCRCにどのような取り組みを期待しているのか、鴨川市への関心度、どのような人物なのかを具体的に把握。

移住意向調査

c. アンケート設計にあたっての仮説

仮説なくては移住希望層とその具体的なニーズは捉えられないため、以下の仮説を持って、これらの検証を図る。
(現状と課題の分析等を通じて、選択肢は今後精査)。

<ターゲット仮説>

- | | |
|---|--|
| ✓ 観光で何度も来訪して「愛着のある」アクティブシニア
(とその予備軍) | ✓ 自然、観光、スポーツ、一次産業に魅かれる「趣味充実型」アクティブシニア |
| ✓ 両親の高齢化を機に「実家に戻る」ことを考えている
アクティブシニア | ✓ 高度医療の集積に魅かれる「健康、安心志向」のシニア |
| | ✓ 東京での仕事に疲れ、空き家等に住み、自給自足的に
「相対的に安い生活コストでゆっくり暮らしたい」アクティブ
シニア予備軍 |

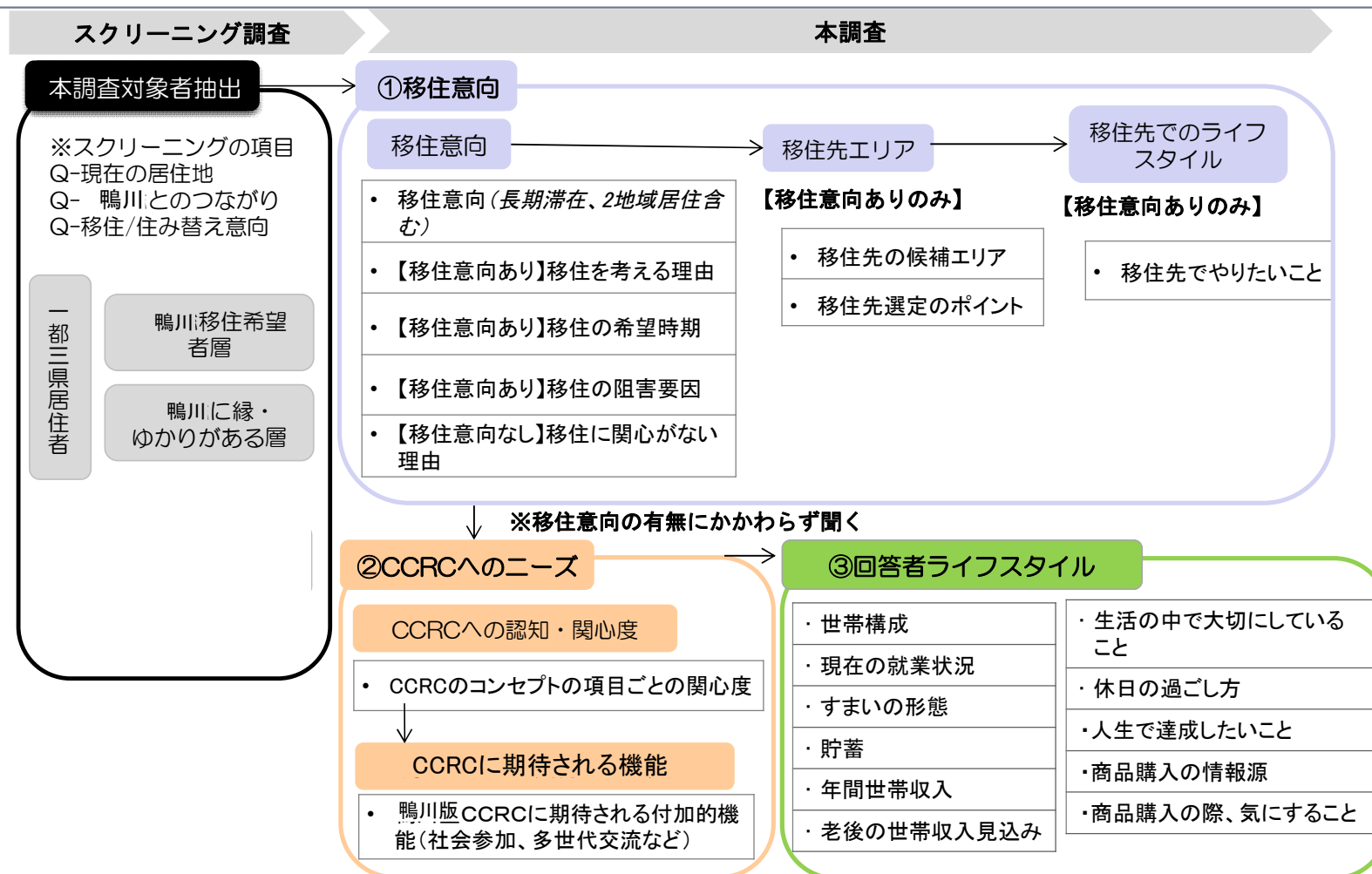
<調査対象概要>

	鴨川市縁ゆかり層	鴨川市移住・二地域居住希望層
年齢層	40代、50代、60代、70歳以上	
性別	男女	
居住地	東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県（鴨川市除く）	
想定標本数	500程度	500程度
鴨川市との関係	鴨川市出身・居住経験あり（二地域居住含む）・友人や親戚が鴨川市出身	鴨川市に移住を希望

移住意向調査

d. 調査内容

- 三菱総合研究所が過去に実施してきたアンケート調査結果を踏まえ、鴨川版CCRCのターゲット層の人物像やニーズが把握できるような調査項目を策定。
- アンケート調査を行い、鴨川版CCRCのターゲット層のイメージを検証、鴨川版CCRCに求められるコンテンツや鴨川版CCRCの目指す姿を検討。



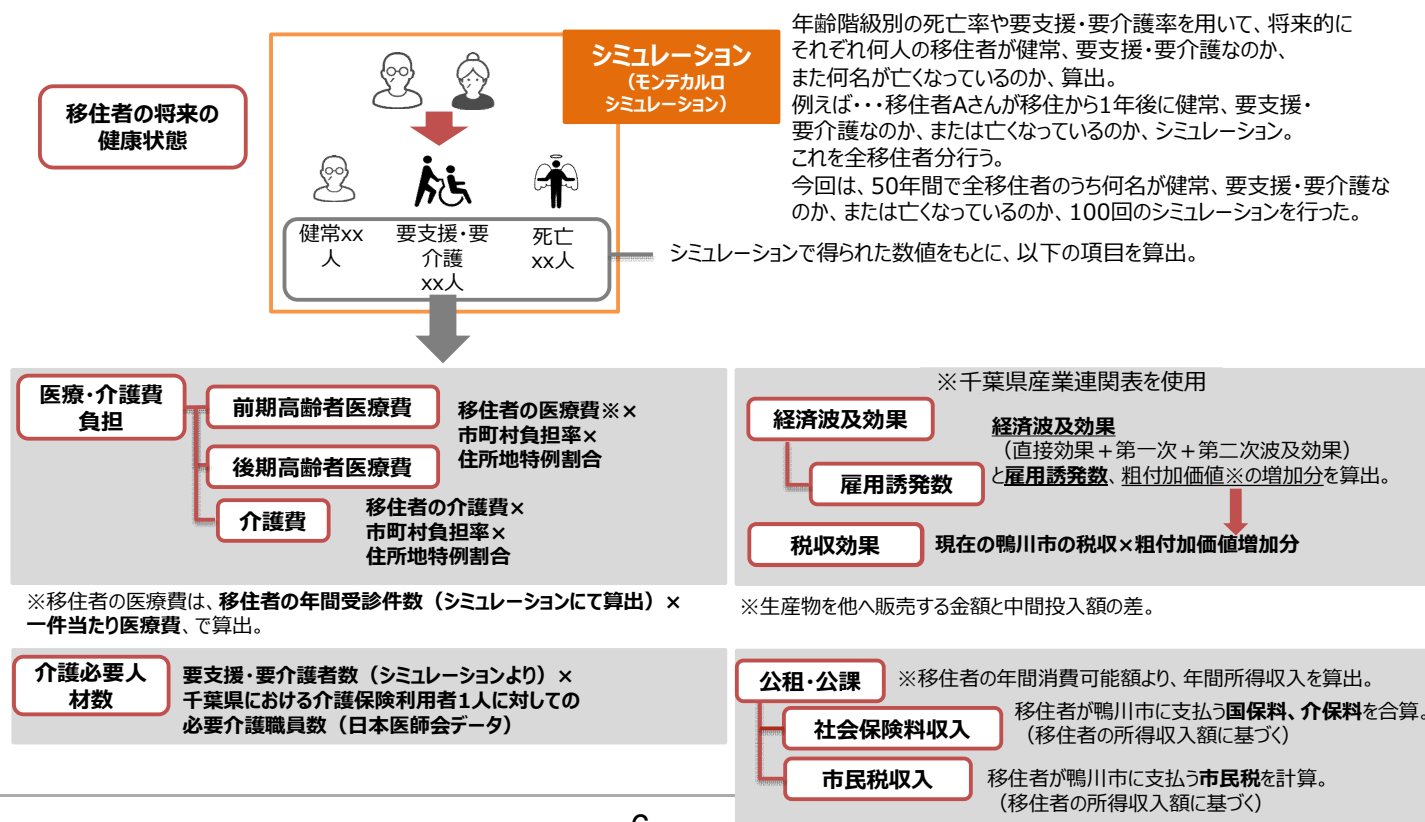
CCRCの効果・影響分析

- 地域課題解決・地域振興に資する鴨川版CCRCのコンセプトや目的を踏まえて、その目的の実現への効果という視点から、地元住民、企業・大学、医療等関係各主体の取り組み、メリットを整理。
- 他地域からの移住受け入れによる効果影響について、医療費・介護費等の負担を抑え、経済効果等をできるだけ大きくしていくことを目指し、地域の参加、移住者の活躍の視点にも留意しながら、移住者の量を設定の上、移住による税收や消費等の効果、医療介護費負担の増加等を試算。

①効果影響の体系的な整理

- ✓ 移住による経済効果と財政負担に区分し、体系化するとともに、試算可能な項目について抽出整理する。

<効果・影響分析の体系（※下記は試算可能な項目に限定）>



CCRCの効果・影響分析

②CCRCが市にもたらす経済効果や医療介護費負担等の定量的な評価

1) 初期条件及びパラメータの設定

- ✓ 初期条件及びパラメータは今後決定するが、必要に応じて三菱総合研究所の類似調査研究実績を元に適切な値を検討し、各種パラメータ値を設定する。代表的な初期パラメータ値は以下の通り。

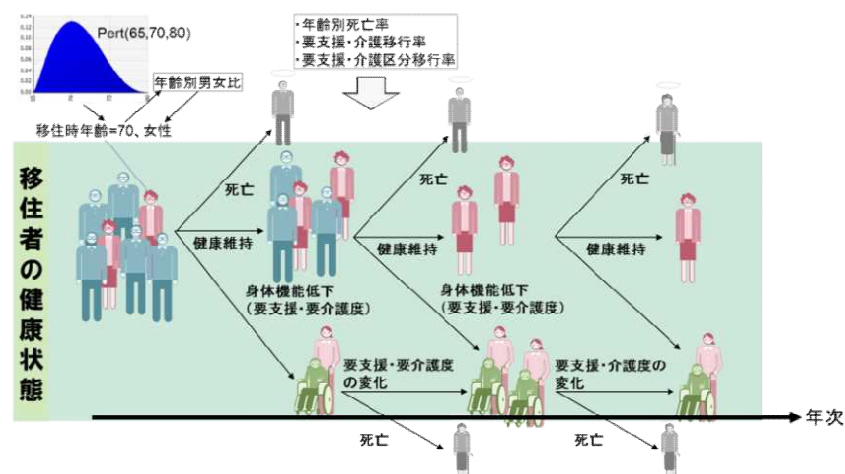
＜シミュレーションの初期設定値（例）＞

カテゴリ	パラメータ	設定イメージ（例）
移住者	移住者数の推移	初年度100名、その後5年間は20名／年が移住
	年齢構成	60-64歳が12%、65-69歳が24%・・・ ※移住初年度の年齢
	性別構成	男性50%、女性50%
	住所地特例の対象者割合	住所地特例の適用者が20% ※移住初年度に設定
	年間消費可能額	月20万円 ※医療・介護自己負担を含む
居住	一般住居／サ高住等の割合 ※初年度以降含む	・要介護認定者はサ高住等 ・健常者のうち20%がサ高住へ入居、残りが一般居住
その他	シミュレーション期間	50年間

2) 社会保障制度の市町村負担の試算

- ✓ 三菱総合研究所が保有する「高齢者の確率的健康状態遷移モデル」を利用し、パラメータ値及び将来シナリオに基づき、中長期的な鴨川市での医療・介護保険負担や、移住による鴨川市への経済的な効果を試算する。

＜高齢者の確率的健康状態遷移モデル（イメージ）＞



CCRCの効果・影響分析

②CCRCが市にもたらす経済効果や医療介護費負担等の定量的な評価

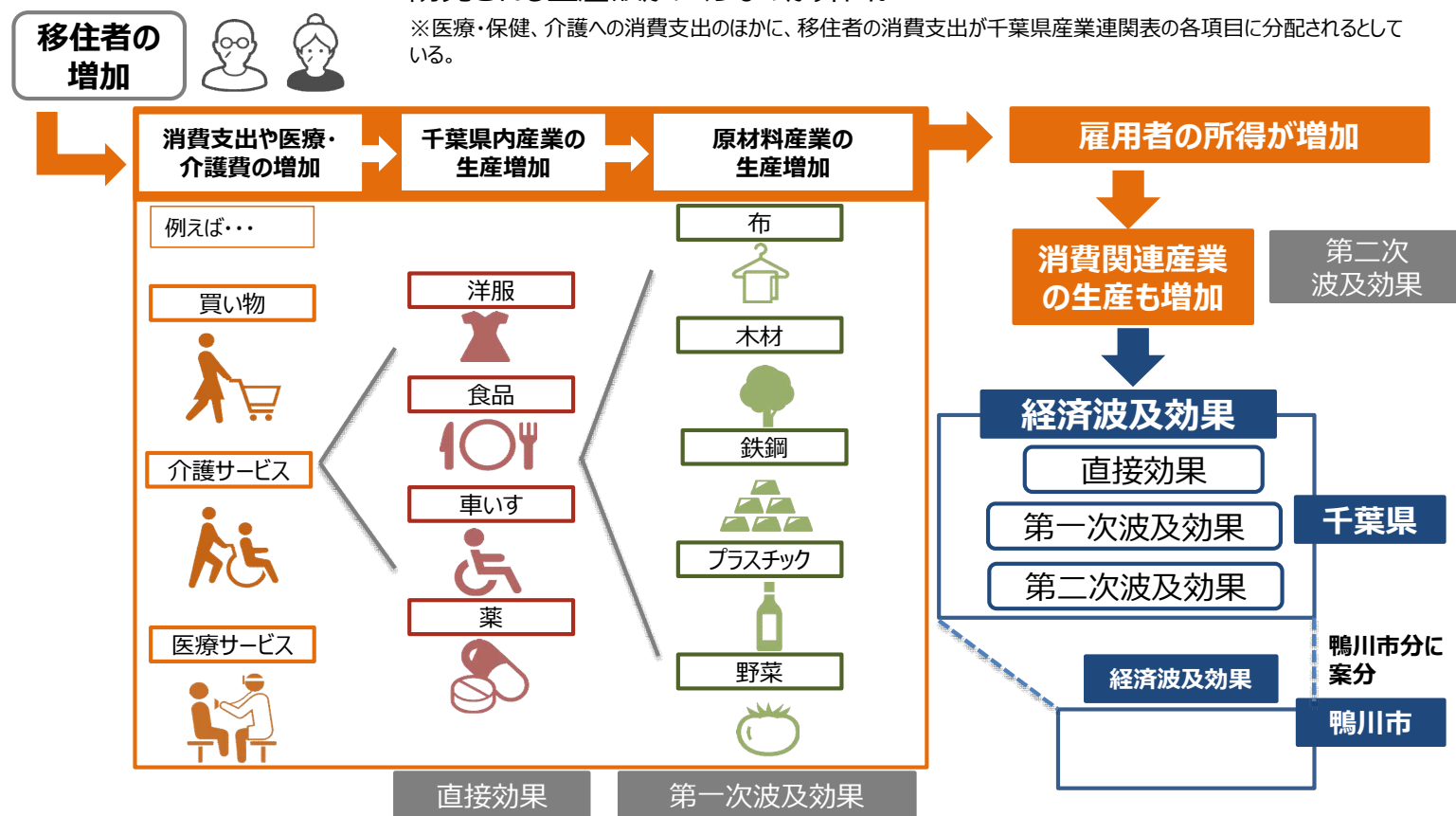
3) 経済効果の試算

- ✓ パラメータ値、将来シナリオに基づき、消費効果などの経済的な効果を産業連関分析により試算する。経済波及効果の試算シナリオは以下のとおり。

<試算シナリオ（経済波及効果）>

移住者の増加によって、鴨川市内での消費額が増えた場合、鴨川市内で誘発される生産額がいくらか算出。

※医療・保健、介護への消費支出のほかに、移住者の消費支出が千葉県産業連関表の各項目に分配されるとしている。



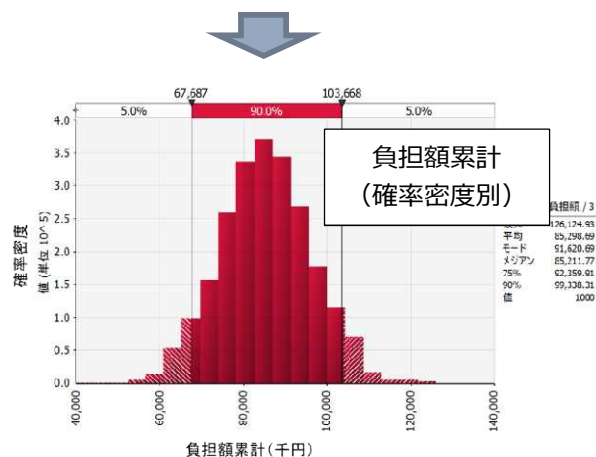
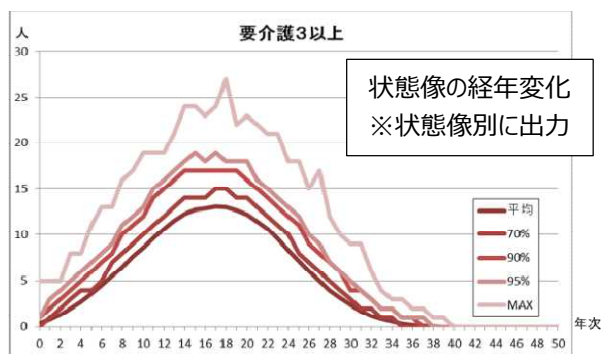
CCRCの効果・影響分析

②CCRCが市にもたらす経済効果や医療介護費負担等の定量的な評価

4) 分析結果の整理

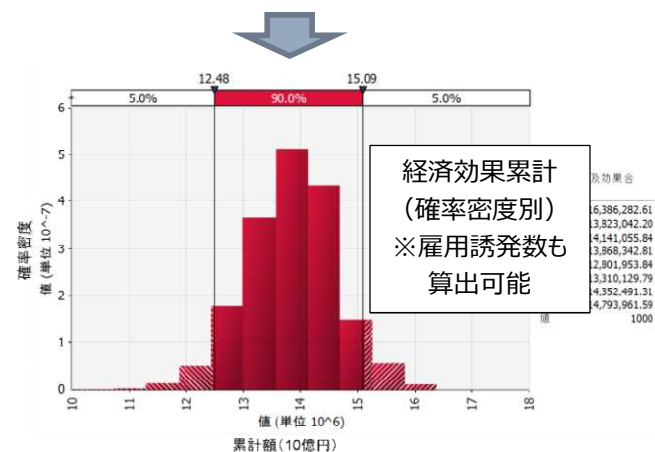
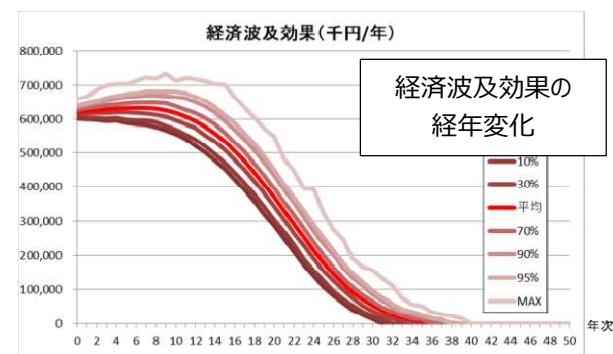
- ✓ 医療介護費の負担額（デメリット）や経済波及効果（メリット）の分析結果について、グラフ等を用いて整理することで、具体的かつ定量的に整理。

■ 医療介護費の負担額シミュレーション



- ・要介護3以上要介護者は平均的には多くても13人。
- ・医療介護費の負担額は、多めのケースで最大5～5.5百万円/年程度。

■ 経済波及効果のシミュレーション



- ・経済波及効果は、少なめのケースでも13年目まで5-6億円/年。累計では140億円程度が中央値。

市内事業所の高齢者雇用意向調査

- CCRC構想の実現にあたっては、移住したアクティブシニアが地域で生きがいを持って働くこととともに、市内事業者にとっても担い手の確保を図っていくことが有効と考えられる。
- 雇用意向をもつ事業者と、どのような職種を希望しているかについて、市内事業所への郵送アンケートにより把握する。
- また、業界団体や雇用意向の高い事業者や団体に対し、その詳細をヒアリング調査によって把握する。

●アンケート調査

市内事業所（100箇所程度）に対し、以下の項目について伺う。

- －基礎情報（企業名／事業内容／従業員数／資本金 等）
- －高齢者の雇用意向（あり／なし、ある場合の人数・場所 等）
- －職種別の雇用意向（経理／総務／技術／製造／管理／現場／その他）
- －雇用形態（正規雇用／パート／アルバイト、就業時間、頻度 等）

●ヒアリング調査

鴨川市の強み・資源（医療、自然（農業・漁業含む）、観光、スポーツ）等にかかわる主体を中心に、雇用意向の高い社や高齢者の就労に適した事業内容、CCRCの取り組みと関連の深い事業内容等に関わる社を5社程度抽出、以下を把握。

- －雇用目的や雇用の内容、人数
- －CCRCの取り組みへの協力意向や協力に必要な条件等